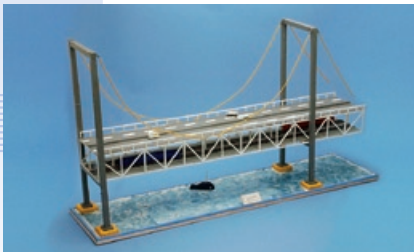




株式会社 横河ブリッジホールディングス



## 株主通信

YBHD NEWS No.26

(第147期 報告書) 平成23年6月



つなく、むすぶ、広げる、未来へ

*The Next Perspective*

■ 株主の皆様へ

To Our Shareholders



取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
また、このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当社グループにつきましては、社員の人命に関わる被害ならびに会社施設および施工現場等に重大な物的被害はありませんでした。また、災害発生直後より、橋梁の緊急復旧工事や既設橋梁の調査点検業務への対応を行いました。

さて、ここに当社第147期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)事業年度が終了しましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。

当期の我が国経済は、海外経済の改善などを背景に景気を持ち直しが期待されましたが、海外景気の減速や円高、中東地域の政情不安に起因する原油価格の動向等により景気が下振れするリスクが懸念されるなかで推移いたしました。

建設業界につきましては、公共事業関係費の削減が続き、民間設備投資も円高の影響などにより低迷するなど、大変厳しい状況で推移いたしました。

このような事業環境下にありまして、当社グループの業績は後ほど申し上げる結果となりました。

株主の皆様への利益還元につきましては、従来から業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ安定した配当を継続することを基本としております。当期の期末配当は、1株につき4円50銭、中間配当を含め年間では9円とさせていただきます。

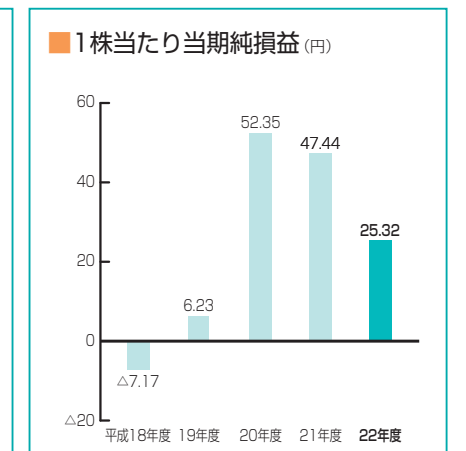
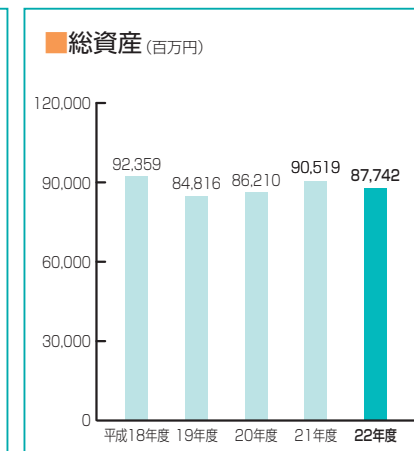
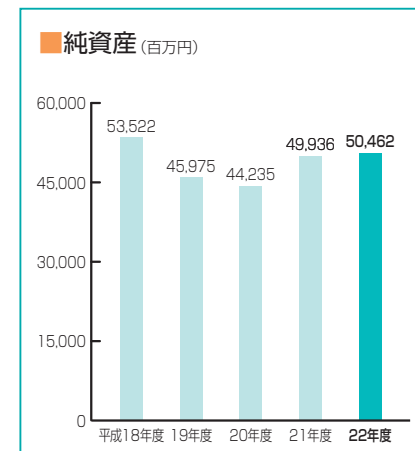
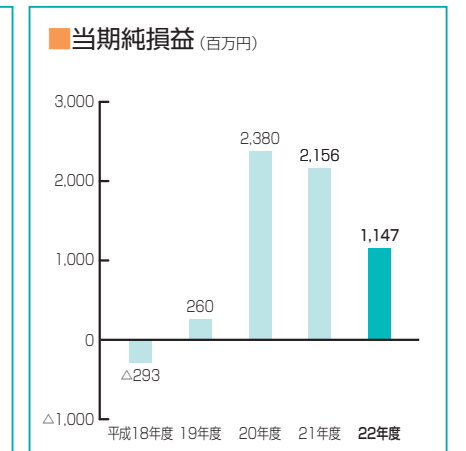
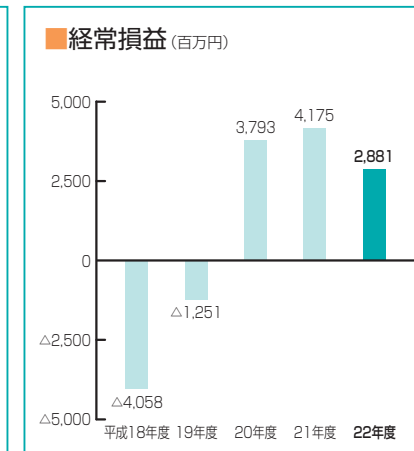
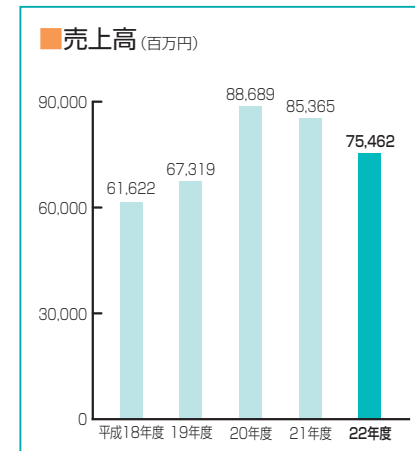
当社グループは、震災復興におきましても長年橋梁建設に携わってまいりました経験・技術力等を発揮し、社会資本であります橋梁の復旧と整備に全力で取り組んでまいります。厳しい事業環境が続きますが、グループが一丸となり、株主の皆様のご期待に応えるよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

■ 財務ハイライト(連結)

Financial Highlights

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高 (百万円)	61,622	67,319	88,689	85,365	75,462
経常損益 (百万円)	△ 4,058	△ 1,251	3,793	4,175	2,881
当期純損益 (百万円)	△ 293	260	2,380	2,156	1,147



当社グループの  
当期の業績につきましては、

受注高は755億円  
(前期比62億7千万円減)、

売上高は754億6千万円  
(同99億円減)、

当期純利益は11億4千万円  
(同10億円減)

となりました。  
各事業別の状況は  
次のとおりです。

### 1 橋梁事業

受注高は、601億9千万円(前期比55億円減)、売上高は577億8千万円(同65億1千万円減)となりました。

平成22年度道路事業予算の削減に伴う国内新設橋梁の総発注量の減少を想定しておりましたものの、最終的には、低水準ながら前期実績とほぼ同じ発注量が確保されました。

国内新設橋梁事業の受注につきましては、高い技術評価点を得るように一層注力するとともに、積算価格の精度向上に努めました結果、国土交通省をはじめ各発注機関の工事の受注を増加させることができ、国内総発注量が低水準で推移するなか、受注高は年間受注目標を大きく上回ることができました。一方、保全事業においては、大型工事の端境期に当たりましたうえ、価格競争が一層厳しくなり、受注高は目標を大きく下回りました。また、海外事業においても、円高が急激に進行したため受注環境は厳しいものとなりました。さらに、予定していた大型工事の契約が来期へ延期となりました。

損益につきましては、前期に続き変動費の削減、固定費の圧縮などに努めた結果、生産中の工事についての採算は改善いたしました。しかしながら、第4四半期において過酷な受注競争のなか、相次いで大型工事を受注しましたが、厳しい価格のため工事損失引当金の計上額が大幅に増加しました。その結果、事業全体としての損益は前期を下回りました。

今後の見通しといたしましては、平成23年度公共事業予算は引き続き削減が行われる見込みであり、また本年3月の東日本大震災により、震災復興対策を優先した予算編成や重点配分が行われることも予想されますので、国内新設橋梁の総発注量の動向は一層不透明感を増しております。

このような厳しい事業環境ではありますが、主要事業である橋梁事業の業績拡大に向け積極的に営業活動を展開するとともに、総合評価落札方式による入札を勝ち抜くため、客先ニーズに最適化する優れた技術提案の作成に一層注力し、また、積算精度の向上も図ってまいります。保全工事につきましても、今後、首都高速道路および東海道新幹線等におけ

る橋梁の老朽化に伴う補修および今回の震災を受けての耐震性向上等に係る客先のニーズが高まることが予想されるため、さらに技術開発を進め、受注に向けて注力していく所存であります。

また海外事業につきましては、インドネシアの現地法人およびベトナム駐在員事務所などの拠点を活用し、積極的な営業を展開してまいります。

### 2 建築環境事業

受注高は、システム建築事業は85億円(前期比4億8千万円増)、建築事業は38億3千万円(同1億9千万円減)、環境事業は5億円(同9億7千万円減)となり、事業全体の受注高は128億5千万円(同6億8千万円減)、売上高は、142億1千万円(同35億8千万円減)となりました。

事業環境につきましては、円高の影響などにより、民間設備投資、特に民間非居住建設投資の停滞が続き、また価格競争も激化し、大変厳しい状況で推移しました。

また損益につきましては、生産量の減少に対応すべく、固定費の圧縮等に努めましたが販管費を賄うまでに至らず、さらにシステム建築事業において貸倒引当金の計上を必要とする事案も発生したため、事業としての採算を確保することができませんでした。

今後の見通しといたしましては、今回の震災の影響を受け、民間需要は一時的に停滞することも考えられます。しかしながら、システム建築事業については、今回の震災で耐震性に優れていることが証明され、短納期で廉価な点も着目され始めており、拡大した販売代理店網の活用により、積極的に営業展開し、受注拡大に注力してまいります。また、建築事業については、現場施工を中心に高度な技術力が求められることから当社グループの技術力が発揮されることもあり、環境事業についても、太陽光発電システムや水処理装置などにおいて、今後大いに需要拡大が期待されることから、これらの分野においても取組みを一層強化してまいります。

### 3 先端技術事業

受注高は、精密機器製造事業は15億5千万円(前期比1億8千万円減)、情報処理事業は8億9千万円(同9千万円増)となり、事業全体の受注高は、24億5千万円(同8千万円減)となりました。

売上高は24億1千万円(同2億6千万円増)となり、損益につきましても前期並みを確保することができました。

今後の見通しといたしましては、先端技術事業のうち精密機器製造事業につきましては、主力の液晶パネル製造装置関連の需要は堅調であります、引き続き新規顧客開拓と新商品の開発に注力し、一層の事業の成長を目指してまいります。

また、情報処理事業においても、今後も新製品の開発に取り組むとともに、既存の主力製品についても機能追加などによる受注拡大を図り、業績の向上を目指してまいります。

### 4 不動産事業

不動産事業の売上高は、10億4千万円(同6千万円減)となりました。

### 今後の状況

売上高につきましては、受注残高が増加しておりますので、当期を若干上回る見通しです。

採算面では、建築環境事業と先端技術事業につきましては、大震災・原発事故により状況は不透明であります、事業採算の確保に向けて努力を重ねてまいります。しかしながら、橋梁事業の採算性が、厳しい受注環境を背景に低下しておりますため、営業利益の一定の悪化は避けられないと思われ、

また、平成19年度の企業結合により生じた負ののれんの償却が当期で完了しましたため、営業外収益の計上も減少いたします。

以上のような状況を踏まえ、次期の連結業績は売上高820億円、営業利益12億円、経常利益12億7千万円、当期純利益6億円と予想しております。

Topics  
1

## グループのシンボルマークが新しくなりました

平成23年4月、横河ブリッジホールディングスグループは、グループの新しいシンボルマーク「NEXT サークル」を策定いたしました。

新しいシンボルマークは、横河ブリッジ創業100周年と横河ブリッジホールディングスの設立を記念して、平成20年4月に策定された「NEXT 100」の意義を継承しつつ、新たに果たすべき義務と責任を明確に表現したものです。

「NEXT」は、次世代・持続性・スピード感を、「サークル」は、9つのグループ会社のつながり・コミュニケーション・ネットワーク・元気を、社会に対し強い決意を宣言した日本語メッセージ「100年の責任。」は、歴史・貢献・未来をそれぞれ表現しています。

新マークのデザインはシンプルに、さらに明るく「元気」で「未来」に向かう姿勢を、グループ会社の結束を表現したスピード感あふれるカラフルなサークルで表現しています。

新しいグループ・シンボルマーク「NEXTサークル」は、創業から100年間に果たしてきました責任と、これから新たな100年に向かい果たすべき責任を強く主張するマークです。

それは、私たち横河ブリッジホールディングスグループが、更なる飛躍を目指してスタートする決意を強く表明しております。



Topics  
2

## 平成22年度 土木学会賞の受賞について

当社グループの社員が下記の賞を受賞いたしましたので、ご紹介いたします。

■ 論文賞

「2重合成I桁の曲げ及びせん断強度の評価方法に関する実験的研究」  
(土木学会論文集A 平成22年3月)

受賞者：当社総合技術研究所 春日井俊博 【共同受賞】

■ 田中賞(論文部門)

「合成I桁の曲げ、せん断相関強度解明に関する実験的研究」  
(土木学会論文集A 平成22年6月)

受賞者：当社総合技術研究所 春日井俊博 【共同受賞】

■ 国際活動奨励賞

受賞者：横河工事 東京建設本部 平井 卓

受賞理由：平成5年より、カンボジア、香港、スリランカ、ベトナムにおいて橋梁の施工に携わり、その成果は発展途上国のインフラ整備と技術の移転に貢献し、欧米の技術と日本の技術を組み合わせることによる技術的発展にも寄与した。



カップスィムン橋(香港)



ムワガマ橋(スリランカ)



ストーンカッターズ橋(香港)

当社グループは、東日本大震災の発生を受け、迅速に被災した橋梁の調査・点検を行うとともに、応急復旧のための技術的助言・報告等を関係当局に行い、さらに一部の橋梁について応急復旧工事を行いました。その際の当社グループの対応と工事の一部をご紹介します。

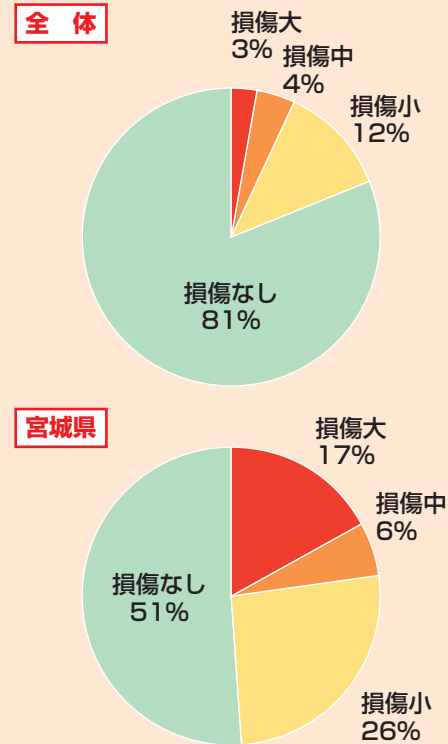
### 既設橋の調査点検の実施

震災発生後、3月14日には「震災対応組織」を設置し、3月17日から東北・関東にかけて合計348橋に対し延べ193名が調査にあたりました。調査点検には横河ブリッジ・横河住金ブリッジ・楯崎製作所・横河工事の4社が対応いたしました。

### 調査点検の結果

管理者	橋梁数	損傷大	損傷中	損傷小	損傷なし
東北地整	40		2	6	32
関東地整	12			1	11
中部地整	3				3
青森県	9			3	6
岩手県	37		1		36
宮城県	35	6	2	9	18
福島県	30		3	5	22
山形県	13				13
茨城県	36	3	3	5	25
千葉県	17				17
栃木県	8			1	7
群馬県	11				11
山梨県	3				3
NEXCO	12			2	10
東北農政	3				3
鉄道関係	6				6
合計	275	9	11	32	223

※橋梁数は再調査も合わせて1橋として計上



### 損傷事例

#### ●支柱対傾構の損傷～アーチ橋～

支柱対傾構の変形と、対傾構のボルト接合部分にすべりが発生。



#### ●支承の損傷～箱桁橋～

支承部分のローラーの逸脱と、サイドブロックのはずれが発生。



### 緊急復旧工事①(二十一浜橋仮橋架設工事)

津波により橋台背面の盛土部分が洗掘された国道45号線の二十一浜橋で仮橋の架設工事を行いました。

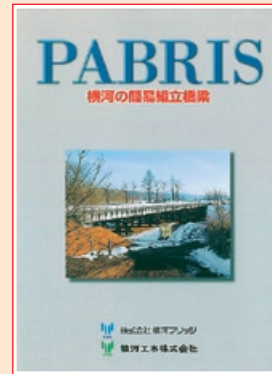
**発注者:**東北地方整備局仙台河川国道事務所

**工期:**平成23年3月12日～4月28日

**所在地:**宮城県気仙沼市(国道45号線)

**施工概要:**既設PC桁の両端に仮橋を架設  
橋長30m・幅員6m、仮橋架設後、覆工版敷設・ガードレール設置

当社グループの仮橋商品



着工前(3月22日)



仮橋架設(4月1日)



架設完了(4月4日)

### 緊急復旧工事②(東水戸道路(常澄高架橋)緊急工事)

地震動により破損した高架橋の支承部の補修工事を行いました。

**発注者:**NEXCO東日本・水戸管理事務所

**工期:**平成23年3月15日～3月20日

**所在地:**茨城県水戸市

**施工概要:**地震動により破損した支承サイドブロックを溶接により取付けて復旧  
サイドブロックとは、橋桁が地震等で横に揺れた際、揺れ幅を抑える部材

#### 支承サイドブロック損傷部



サイドブロック破損時



溶接箇所ケレン



サイドブロック溶接作業



施工完了

以上、東日本大震災への当社グループの対応の一部をご紹介いたしました。当社グループは、「社会公共への奉仕と健全経営」の経営理念のもと、今後の復旧工事・復興支援に全力で取り組んでまいります。

## ■ 連結財務諸表

## Financial Statements

### ■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>54,061</b>	<b>54,404</b>
現金預金	11,389	12,340
受取手形・完成工事未収入金等	36,187	37,409
有価証券	814	16
たな卸資産	1,414	-
原材料及び貯蔵品	-	1,059
その他のたな卸資産	-	177
繰延税金資産	2,064	2,075
その他	2,229	1,372
貸倒引当金	△ 38	△ 47
<b>固定資産</b>	<b>33,681</b>	<b>36,115</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>18,199</b>	<b>19,256</b>
建物・構築物(純額)	6,423	6,858
機械装置及び運搬具(純額)	2,038	2,530
土地	9,408	9,471
建設仮勘定	16	11
その他(純額)	311	383
<b>無形固定資産</b>	<b>1,036</b>	<b>1,159</b>
ソフトウェア	911	993
その他	125	165
<b>投資その他の資産</b>	<b>14,444</b>	<b>15,699</b>
投資有価証券	9,488	10,462
関係会社株式	64	63
繰延税金資産	4,246	4,470
その他	842	829
貸倒引当金	△ 197	△ 126
<b>資産合計</b>	<b>87,742</b>	<b>90,519</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### ■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>24,861</b>	<b>31,626</b>
支払手形・工事未払金等	12,588	13,878
短期借入金	2,000	7,000
未払法人税等	780	1,716
未成工事受入金	3,288	2,327
工事損失引当金	3,253	2,479
賞与引当金	1,632	1,711
その他の引当金	118	160
その他	1,198	2,353
<b>固定負債</b>	<b>12,419</b>	<b>8,956</b>
長期借入金	4,000	-
退職給付引当金	7,054	6,853
役員退職慰労引当金	771	778
負ののれん	64	610
その他	528	714
<b>負債合計</b>	<b>37,280</b>	<b>40,583</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>52,926</b>	<b>52,548</b>
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,088	10,089
利益剰余金	33,839	33,100
自己株式	△ 437	△ 77
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 3,045</b>	<b>△ 3,195</b>
その他有価証券評価差額金	△ 715	△ 865
土地再評価差額金	△ 2,329	△ 2,329
<b>少数株主持分</b>	<b>581</b>	<b>583</b>
<b>純資産合計</b>	<b>50,462</b>	<b>49,936</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>87,742</b>	<b>90,519</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### ■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
<b>売上高</b>	<b>75,462</b>	<b>85,365</b>
売上原価	66,076	75,283
<b>売上総利益</b>	<b>9,385</b>	<b>10,082</b>
販売費及び一般管理費	7,185	7,180
<b>営業利益</b>	<b>2,200</b>	<b>2,901</b>
営業外収益	923	1,495
営業外費用	242	221
<b>経常利益</b>	<b>2,881</b>	<b>4,175</b>
特別利益	125	40
特別損失	757	301
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>2,249</b>	<b>3,914</b>
法人税、住民税及び事業税	855	1,650
法人税等調整額	247	41
少数株主損益調整前当期純利益	1,145	-
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 1	65
<b>当期純利益</b>	<b>1,147</b>	<b>2,156</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,791</b>	<b>3,051</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 960</b>	<b>1,733</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,769</b>	<b>329</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 13</b>	<b>△ 10</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△ 951</b>	<b>5,104</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>12,310</b>	<b>7,206</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>11,359</b>	<b>12,310</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### ■ 連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
<b>平成22年3月31日残高</b>	9,435	10,089	33,100	△ 77	52,548	△ 865	△ 2,329	△ 3,195	583	49,936
<b>連結会計年度中の変動額</b>										
剰余金の配当			△ 408		△ 408					△ 408
当期純利益			1,147		1,147					1,147
自己株式の取得				△ 362	△ 362					△ 362
自己株式の処分				1	1					1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						149		149	△ 1	148
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	-	△ 0	738	△ 360	377	149	-	149	△ 1	526
<b>平成23年3月31日残高</b>	9,435	10,088	33,839	△ 437	52,926	△ 715	△ 2,329	△ 3,045	581	50,462

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 株式情報 (平成23年3月31日現在)

## Stock Information

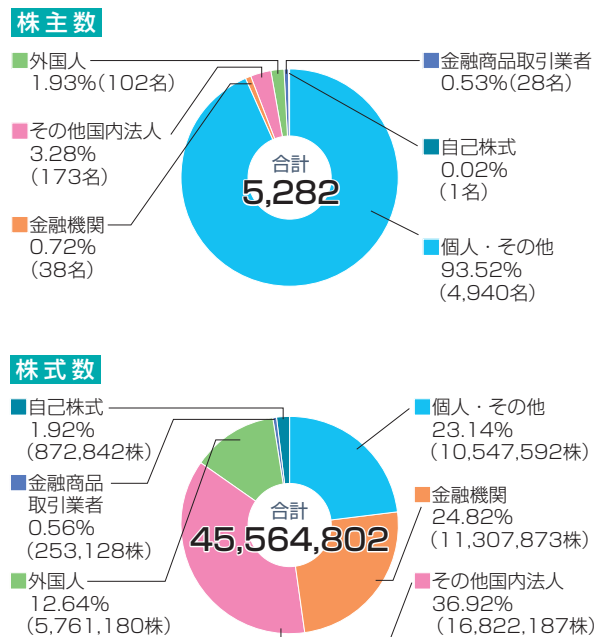
### ■ 株式の状況

発行可能株式総数…………… 180,000,000株  
 発行済株式総数…………… 45,564,802株  
 株主数…………… 5,282名

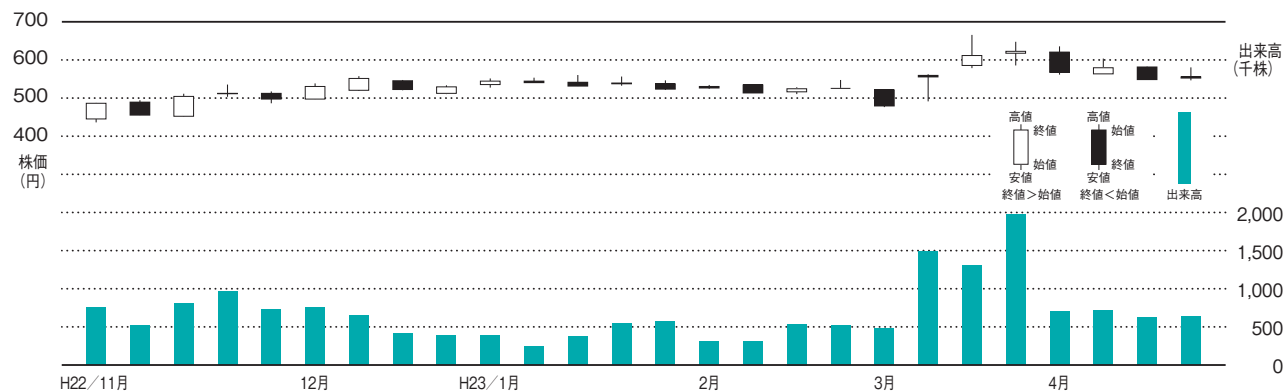
### ■ 大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
横河電機株式会社	2,793,691	6.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,061,000	4.52
新日本製鐵株式会社	1,987,303	4.36
CGML-IPB CUSTOMER COLLATERAL ACCOUNT	1,963,000	4.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,639,000	3.59
瀧上工業株式会社	1,140,000	2.50
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	1,017,000	2.23
日本生命保険相互会社	968,839	2.12
株式会社みずほコーポレート銀行	890,612	1.95
自己株式	872,842	1.92

### ■ 株式分布状況



### ■ 株価および出来高の推移



## ■ 会社概要

## Corporate Data

### ■ 会社概要

社名 株式会社横河ブリッジホールディングス  
 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号  
 TEL:03-3453-4111(代表)  
 資本金 9,435百万円  
 主な機能 経営戦略、法務・監査、経理・財務  
 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

### ■ 役員一覧 (平成23年6月29日現在)

代表取締役会長 佐々木 恒 容  
 代表取締役社長 吉 田 明  
 取締役 佐々木 保 隆  
 取締役 藤 井 久 司  
 取締役 上 原 修  
 取締役 猪 岡 修 治  
 取締役 小 川 克 美  
 取締役 宮 田 安 敏  
 取締役 高 田 和 彦  
 常勤監査役 北 爪 恒 平  
 常勤監査役 深 沢 誠  
 監査役 志々目 昌 史 (社外監査役)  
 監査役 松 本 恒 夫 (社外監査役)  
 監査役 八 木 和 則 (社外監査役)

●表紙の写真は、平成22年度 高校生「橋梁模型」作品発表会に出展された作品の一部を掲載しております。作品名・学校名・作成者は右のとおりです。

※この作品発表会は、東北6県の高等学校で土木を学ぶ生徒を対象に募集を行い、橋梁模型づくりを通じて橋の種類や構造に関する知識を深めてもらうとともに、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的として平成14年度から実施されております。

作品名	学校名	作成者(敬称略)
西海橋	青森県立弘前工業高等学校	佐藤 慎 三上 優 本間 健悟
明石海峡大橋	秋田県立大館工業高等学校	武田 麻希 木村 柚奈 佐々木 美咲 斎藤 鉄樹 佐藤 亨丞 吉田 琢真
レインボーブリッジ	山形県立長井工業高等学校	横澤 大樹 鈴木 一平 高井 祐輝
瀬戸大橋	山形県立長井工業高等学校	土屋 悠貴 四釜 裕太 土田 靖浩 八木 竣平



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 〒105-8574 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120(78)2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>

## YBHDグループ



**株式会社 横河ブリッジホールディングス**  
グループ全体の経営管理



**株式会社 横河ブリッジ**  
橋梁・精密機器製造



**横河工事株式会社**  
土木・建築・保全



**株式会社 横河システム建築**  
システム建築・開閉式建築システム・環境



**株式会社 横河住金ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



**株式会社 榑崎製作所**  
水処理・環境製品・鋼構造物



**株式会社 横河技術情報**  
情報処理サービス・ソフトウェア開発



**株式会社 横河ニューライフ**  
不動産管理・情報システム・人材派遣



**株式会社 ワイシーイー**  
橋梁等構造物の総合エンジニアリング